

第5回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2023年8月29日（火）19時～21時30分
◇方法	ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数	36名
◇内容	単元構想案の相互検討①

【ルーム1】ファシリテーター：大西浩明（奈良教育大学）

1）藤岡晃宏先生（奈良市立三碓小学校） 小学校5年 総合的な学習の時間「世界遺産学習」

「古都奈良の文化財」の現地学習（11月24日）をどう生かすか

校区には文化財のようなものはないが、「残していきたいもの」を考えさせたい

世界遺産写真クイズを導入に、世界遺産そのものや奈良の世界遺産について調べる

ボランティアガイドに案内いただき、東大寺・正倉院・春日大社へ行く

最後に、「三碓八けい（景）（結）（継）を探そう！！」 地域のたからものを考える

意見交流から

- ・奈良は「たからもの」が多すぎて、その価値を理解できていないのではないかな。
世界遺産という「もの」だけではなく、有形・無形のものと考えやすいようにしてはどうか。
- ・自分たちの地域にも「守られてきたもの」「大切にされてきたもの」があるはず。
「三碓八けい」を選ぶ基準をみんなで考え合うことで、「たからもの」の価値が理解できるのでは。
- ・継承されてきたもの、されてこなかったものを、人の営みに焦点をあてて考えさせたい。
後継者になることが大事なのではなく、サポーターになることを目標にしたい。
- ・奈良の世界遺産は、どこが「たからもの」なのかをしっかりと追求させたい。
自分の見方で、自分たちの地域の「たからもの」を見つけさせたい。
まずは、単元名に先生のこの学習への思いが表れるようなタイトルをつけることから。

2）窪田あずさ先生（屋久島町立安房小学校）

小学校3年 音楽・社会・総合的な学習の時間「安房探検隊！」

音楽で「茶つみ」を歌う 屋久島では茶づくりが行われている

屋久島のお茶を飲む → お茶工場の見学（社会科）

地域で作っているお茶について知り、その課題も含めて他学年や他校の友達に発信する

最後に、地域の課題を考え、解決への方策を話し合う

意見交流から

- ・同じ学級の中に茶づくりをしている家庭があるのなら、もっと生かしていきたい。
栄養教諭などにも入ってもらって、「屋久島のお茶はすごい！」と感じさせて学びを進めさせたい。
- ・屋久島の気候や地形、土壌など、お茶づくりに適していることを調べることも大事なのでは。
- ・大人になったときにどうなっていてほしいかという視点を大事にして授業づくりしたい。
- ・茶づくりに関わっている人たちの苦勞や工夫に迫ることが、社会科の目標でもあるのではないかな。
その苦勞や工夫が消費者の「おいしい」につながっていることが感じられるように。
- ・音楽で入るなら音楽で終わりたい。もう一度最後に歌うと、歌声が違っているはず。

- ・「安房の課題」という大きなテーマよりも、茶づくりの課題（生産者・生産量の減少）も含めて、もっと屋久島のお茶をアピールするような取り組みを最後にする方がいいのでは。

3) 吉見香奈子先生（松山市立たちばな小学校）

小学校5年 外国語・総合的な学習の時間「見付けた！My Hero ～愛媛と世界をつなぐ人～」

現在、外国語専科 なんとか自分事化できる外国語の学習を目指している

「My Hero」の单元では身近な人を取り上げているが、つい一般的な Hero を考えてしまう

5年生では総合で環境について考えていて、地域について考える学習をしている

愛媛の Hero を取り上げさせたい 世界で活躍する地域の Hero

自分が見つけた Hero を英語で紹介させたい

意見交流から

- ・紹介する際に、小学生では覚えられないような難しい言葉を入れる必要はないと思うが。

→ Who is your hero?

She can dance very well.

I like my sister very much.

She is good at～.

She is(形容詞).

これが基本フレーズであって、どうしても日本語でしか説明できないものは日本語で。

- ・Hero はだれかを考える中で、地域のことをよく知ることができる取り組みにしたい。
- ・ALT がいるのなら、その人に紹介するようにすると、愛媛のことを伝える取り組みになるのでは。
- ・発信のところで「canva」を使うと、スライドショーになっておもしろいかも。
- ・発表するときにキャッチフレーズを一つ考えて、それにふさわしい表現は何かを考えるのもいい。

4) 中澤哲也先生（大和郡山市立片桐西小学校）

小学校6年 総合的な学習の時間「2023 片西平和プロジェクト」

昔の写真をAIでカラー化したものを見せる 白黒と比べて生き生きと見える

カラー化に取り組んでいる庭田さん（東京大学4年生：広島出身）を取り上げる

「なぜ、庭田さんはモノクロ写真をカラー化したのだろう？」

小学校5年生のときに、中島地区の被爆前の写真に出会う

今と変わらない現実がそこにある！

修学旅行で庭田さんの講話、いっしょに中島地区を歩く

3学期、市内の小学校に伝える活動 「核兵器を世界からなくすために」

意見交流から

- ・写真という、誰もが持っている思い出が導入というのがいい。
庭田さんは子どもたちと年齢も近く、語り部さんから聞くのとは違って話が入りやすいと思う。
- ・「核兵器を世界からなくすために」は、子どもができないことが多い。「核のことをもっと知ろう」でもいいのでは。フクシマの原発事故のことを取り上げても。
- ・ロシア、ウクライナのことを言っても、なかなか自分ごとにはならない。
- ・庭田さんにせっかく協力してもらえば、子どもの考えたことを聞いてもらう機会をつくっては。
庭田さんからのフィードバックがあれば、さらに広がりがある。

- ・私にとっての「平和」とは？ 写真で入ったから、そんな写真を撮って自分にとっての平和について語れる場面をつくってはどうか。

【ルーム2】ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

1）榎木敏之先生：榎木先生（熊本市立天明中学校）

中学校1年 総合的な学習の時間「見とこ・知とこ」プロジェクト（自然環境編）

生徒の実態

天明地域ではホタルの復活を目的に地域活動が展開されている。地域の環境保全隊の方々が、ホタルの学習をしてくれているが、生徒の学習態度は受け身である。→ 主体的に学習に取り組む態度を育てたい

①天明地域の自然環境の変化を調べよう

ホタル以外にもいなくなってしまった生き物がいるかもしれない

②他の地域では、環境保全活動としてどのようなことをしているのだろう

日本・世界で起きている環境問題や保全活動を調べてまとめる

③他の地域での環境保全活動を参考に、天明地域でできることを考え、行動する。

意見交流から

- ・天明地域では1中4小でホタルの取組が行われているがうまくいっていない。一方4つの公園での取組は成果が出ている。公園での取組に生徒を積極的に関わらせ、地域の方々と協働する機会を提供する。
- ・天明地域では、不要になった海の杭を炭にしたり、川を生き返らせることを目的とした森づくりなどの環境保全活動も展開されている。学校で新たな取組を考えるよりも、既存の団体の取組との連携を中心にして、一生懸命活動している人々と出会わせることで、生徒の変容が期待できるのではないか。

2）古本大周先生（熊本市立天明中学校） 中学校2年 保健体育科「健康と環境」

①なぜ日射病や熱中症が増えているのだろう。

温暖化の現状（日本と世界）

温暖化の原因

温暖化の影響（台風、食料生産、健康被害）などを調べてまとめる

②自分たちにも地球にも優しい生活スタイルを作り出すために、どのように行動していけばよいのか

意見交流から

- ・大きなテーマなので、「自分事化」がポイントになる。熊本県气象台や熊本県温暖化防止センターと連携し、温暖化の客観的データを取得する。生徒は今の気候が当たり前と思っている。改善するためにはクリティカルに捉えることが必要なので、時間軸を持ち込んで、過去のデータと比較する。
- ・生活スタイルを発信したり、自分の生活スタイルを変えたりしても、温暖化の緩和への影響はよくわからない（見えない）。発信して終わりにならないようにすることが難しい。
- ・日記形式で、自分の取組を記録させ、ある程度たってからレポートにまとめさせる。

3）井阪愛子先生（平群町立平群中学校） 中学校3年 「修学旅行を通じた平和学習」

○探究から探求へ

探究的な学びでおわることなく、自己の生き方にせまる探求学習を行いたい

①事前学習

沖縄について知りたい気持ちを高めるために。

沖縄に関する詳しい情報を伝え、修学旅行の意義を考え、ワクワク感を醸成する
行く前に見たいことや知りたいことを整理させたい。

- ・ひめゆり学徒隊のビデオ視聴 同じような年齢の少女たち 自分事化を促す
 - 語り続けないと 資料集を作成して持っていこう
 - それぞれの関心にもとづいて作成する（教員もつくった）
- 戦争について肌で感じ取れるようにしたい
- ・平和のネットワークに連絡をとり、平和の礎に関する資料を取得する

②修学旅行中

- ・平和セレモニー ・平和祈念資料館見学 ・ガマ体験（語り部ボランティア） ・基地など

③事後学習

文化祭で多くの人に伝えよう

社会科での「平和について考えよう」のレポート作成

○探究から探求へ

沖縄をテーマに平和について探究する学習を通して、自分の生き方を考えていく（探求）

アンケート「生きていくうえで大切にしたいことは何ですか？」

意見交流から

- ・探求のアンケートについては、学習前にも同様のアンケートを行い、学習後と比較すればよかった
- ・アンケート内容がよかった。立ち止まって考えることで、修学旅行での体験の意味を、生徒が深めることができたのではないかな。
- ・探究から探求へのつながりをどうしたのか？少し距離感があるのでは。
ひめゆり学徒隊や平和の礎について、同じくらいの年齢の人たちがどのように生き、何を感じていたのかにフォーカスした。同じくらいの年齢の人たちであったことが、自分はどのように生きるのかという探求を促すことができたのではないかな。

【ルーム3】ファシリテーター：河野晋也（大分大学）

1）屋良真弓先生（沖縄県南風原町立南風原小学校）

小学校6年 社会科・総合的な学習の時間「平和でゆたかな暮らしを目指して」

算数科を起点にした総合、社会科の横断的な取り組みについて報告した。

教材として取り上げた「花ブロック」は沖縄独特の外壁のデザインであり、戦後アメリカ軍が持ち込んだコンクリートを使った建設によって広がった。

風通しがよくさびることもなく、沖縄織物の絣模様から生まれたといわれ、戦後の沖縄の復興の歴史や風土を学ぶことができる。

本実践では、算数の「対称」の単元で、花ブロックを取り上げ、対称な図形を使った設計に取り組みながら親しんでいく。

その後、花ブロックの歴史的な背景を学び、沖縄の人々が戦後復興にどのように向き合っていたのかを学習する。

参加者からは、花ブロックの教材としての価値が高いだけに様々な展開が考えられ、どのように学習をまとめていくべきかという点を中心に意見が出された。

2) 竹田光陽先生（生駒市立生駒東小学校）

小学校6年 総合的な学習の時間「今ある生活を、当たり前と捉えない自分になろう」

国や地域によっては学校に通えない子どもたちがいることに気付かせ、卒業を前にした6年生に対し学校に通うことの意味を改めて考えさせようとする実践。

子どもたちにとって身近ではない途上国の貧困を扱うため、どのように子どもたちが自分ごととして考える問いを設定するかを中心に参加者から意見が出された。

実際に東南アジアの学校と交流することも検討されており、実際に現地の人と会うことでどのように学びが促進されるのか、どのように気づきを拾い上げていくべきかについて意見が出された。

3) 栗谷正樹先生（大阪市立今川小学校）

小学校6年 総合的な学習の時間「百舌鳥古墳群を未来に伝えよう」

世界遺産となった百舌鳥・古市古墳群に着目した実践。

戦後復興の時期には、必要な土を得るため古墳が壊されていったことがあった。

それを問題視して古墳を守ろうとした人たちの取組や、現在も保全活動が続けている人たちの思いに気付かせ、地域の文化財の価値に気付かせようとする。

授業者からは現地に足を運んで地域の方にインタビューをした結果などを交えて説明があり、古墳に関わる人の思いを授業内で取り上げていくことの良さが確かめられた。

4) 高良直人先生（沖縄県那覇市立松島中学校）

中学校2年 総合的な学習の時間「すい（首里）まちま〜い 探求学習」

首里にある自然や文化遺産に着目し、フィールドワークを通して子どもたちが感じ取っていく。

そのうえで、「首里の豊かな自然や文化遺産を守り、伝承していくためには、どんなことができるだろう？」という問いによって、自然や文化を守る様々な取り組みに気付いていくという構想。

沖縄の価値は、県外からでは観光自然ばかりが目につくが、そこで生活している子どもたちだからこそ気付くことができる魅力がある。

こうした価値に気付かなければオーバーツーリズムが深刻化して、ますます自然や文化遺産の保全は難しくなるため、ぜひ子どもたちが気付いた魅力を県外の観光客に向けて発信してほしいとの意見があった。

【ルーム4】ファシリテーター：新宮済（奈良女子高等学校）

1) 坂元達哉先生（屋久島町立神山小学校）

小学校6年 総合的な学習の時間「生かそう屋久島のみ力 創ろうわたしたちの未来

屋久島世界遺産登録30周年記念プロジェクト」

世界遺産30周年とかけながら、神山地域を舞台にして神山型SDGsをつくり行動していく

昨年の神山小のESD実践「かわひこ」につづくような実践をつくりたい。

現在具体的な行動について現在考えていて、意見交換したい

意見交流から

- ・島民ができる身近な行動とあるが、具体的な行動は…。
- ・屋久島らしさを追究してほしい。
- ・世界遺産認定を抑えることが大切。

- ・行動化について一つひとつ精査していこう。
- ・エコツーリズムか、サステイナブルツーリズムを教材研究してみたらどうだろう。
- ・「ここみて 屋久島 SDGs 学び旅」的なアクションが面白い。

2) 石山葉月先生（山形県立高畠高校） 高校1年 国語 言語文化 芥川龍之介『羅生門』（全10時間）

授業の中盤までは国語として読む力を育成する、その後 ESD を行う。

下人について読み進めることを通じて、普段自分事ではない「貧困」について疑似体験し、貧困について考える。

また貧困についての解決の一つとして社会保障制度について役場の方から学ぶなかで、幸福な生き方について思考していく。展開について意見交換がしたい。

意見交流から

- ・「どうしたら下人にならなかったかな。」
- ・国語の授業で役場の方に出会わせる方を工夫した方がいい。
- ・社会保障について考えることで、解決の方法についても考える。
- ・さまざまな飢餓、極限状態を「羅生門」から伺い、人の本質、幸福について考えていくことの先駆性に期待している。

3) 川邊甲余子先生（奈良市立伏見小学校） 小学校2年 生活科「未来のおもちゃ館」

生活科「おもちゃづくり」の単元において、奈良町からくりおもちゃ館とコラボ ESD を行う。

教科書通りでおもちゃを作る→奈良で受けつがれてきた「からくりおもちゃ」に出会い、遊び比べる。

→からくりおもちゃが大切に受け継がれてきたことを2年生なりに理解する

→からくりおもちゃを発信するために未来のおもちゃ館をやってみる

意見交流から

- ・「未来のおもちゃ館」となると、すごくたいそうなものを作らなければならない感じがするので、「令和のおもちゃ館」くらいにしておいた方がいい。
- ・「なぜ残されているのか」という問いは2年生には難しいかもしれない。
- ・からくりおもちゃ館とコラボして館長さんと呼んで学習を深めるのがおもしろい。
 - そういった言語化ではなく、館長さんの熱意であるとか、からくりという昔の人の工夫とかを感じて、おもちゃ作りに生かすことができるといったことに焦点を当てればいいのか。
 - からくりおもちゃのからくり部分は、言わば昔の人の知恵であり、それらを再現させておもちゃ作りをすることは、そういった知恵を感じる活動なのではないか。そういった知恵が生かされているようなものが身近で例として出せると、からくりという知恵のすごさとかを感じられて、遠い昔の人のことではなく自分ごととして生活の中で工夫することにつながっていけばいいのではないか。

【最後に3つの授業をふりかえりながら授業づくりについて意見交換】

- ・現地に足を運んで、教材理解を深めよう
- ・教員も体験して学ぶことが大切。
- ・ワクワクした授業展開をつくるために、教員もアクティブに活動しよう